

施設機能の詳細検討・施設規模の検討

1

前回委員会での検討事項

前回委員会での検討事項

- ・コンセプトを基にした施設機能（案）
- ・施設構成：大ホール・創造支援部門・共用部門・管理部門⇒部門の大きな方針を確認

挙げられた主なご意見

○大ホールについて

- ・客席数については保留
- ・ロールバックチェアの設置・平土間での利用、パーティ利用
- ・近隣の他のホールとの差別化（機能面、使い勝手など）

○創造支援部門について

- ・会議室は不要/調理室は不要
- ・日常利用しやすい小規模な部屋/様々なところを展示スペースとして利用
- ・市民が利用しやすい規模の小ホールの設置検討、小ホールは音響性能を重視したい

○共用部門について

- ・用事がなくても来られる空間/託児機能付きのキッズルーム/公会堂の歴史展示/カフェ
- ・市の情報コーナーは不要

○ワークショップでのご意見（抜粋）

- ・成人式やオーケストラコンサート、吹奏楽の大会などができる規模
- ・固定席の意見が優勢（平土間空間は小ホールへの意見が多い）
- ・様々な演目に対応した舞台設備

- ・防音室、ピアノの設置
- ・ダンス練習ができる鏡のある部屋
- ・展示ができる部屋
- ・パーティ利用
- ・200-500席規模の小ホール

- ・飲食、勉強や読書
- ・エントランスを利用したイベント
- ・防災用に転用できるスペース

2

1. 大ホールの検討

- ・客席数
- ・客席形状(層数)
- ・ロールバックチェア
- ・舞台規模
- ・オーケストラピット

3

1. 大ホール部門 検討事項1-1. 客席数

●基本調査における意見

- ・興行・鑑賞での席数
 - 貸館での公演を成立させるには客席数は1,800-2,000席程度必要
 - 共催事業であれば、1,200席程度でも実施される可能性は高い
 - 近隣のホールと比較して、客席数を多く確保することで競争力を高めたい
- ・市民利用での席数
 - 大規模な発表の場合は800～1,000席程度の意見が多い
 - 小規模な発表利用にも対応できるように、幕などで2階席が隠せる設備を設置したい



4

1. 大ホール部門 検討事項1-1. 客席数

●（再掲）古河市周辺のホール席数と稼働率

No	施設名	客席数	稼働率	
			H30	R4
1	春日部市民文化会館	1,506	56.2%	53.2%
2	結城市民文化センター	1,286	54.2%	39.0%
3	羽生市産業文化ホール	1,286	40.1%	48.2%
4	佐野市文化会館	1,284	61.1%	63.3%
5	久喜総合文化会館	1,218	57.9%	61.2%
6	栃木市栃木文化会館	1,204	64.4%	59.9%
7	栃木市藤岡文化会館	1,004	24.7%	21.6%
8	野木町文化会館	800		56.9%
9	坂東市民音楽ホール	704	50.3%	50.7%
10	栃木市岩舟文化会館	704	48.0%	50.0%
11	蓮田市総合文化会館	634	56.3%	49.4%
12	館林市三の丸芸術ホール	519	52.1%	49.1%
13	筑西市立生涯学習センター	512	45.4%	16.3%
14	久喜市栗橋文化会館	480	38.5%	46.4%
参考	全国平均（1000席～）		63.7%	49.7%
	全国平均（500～999席）		55.0%	44.3%

近隣市町においては1,200～1,300席規模のメインホールが多い。

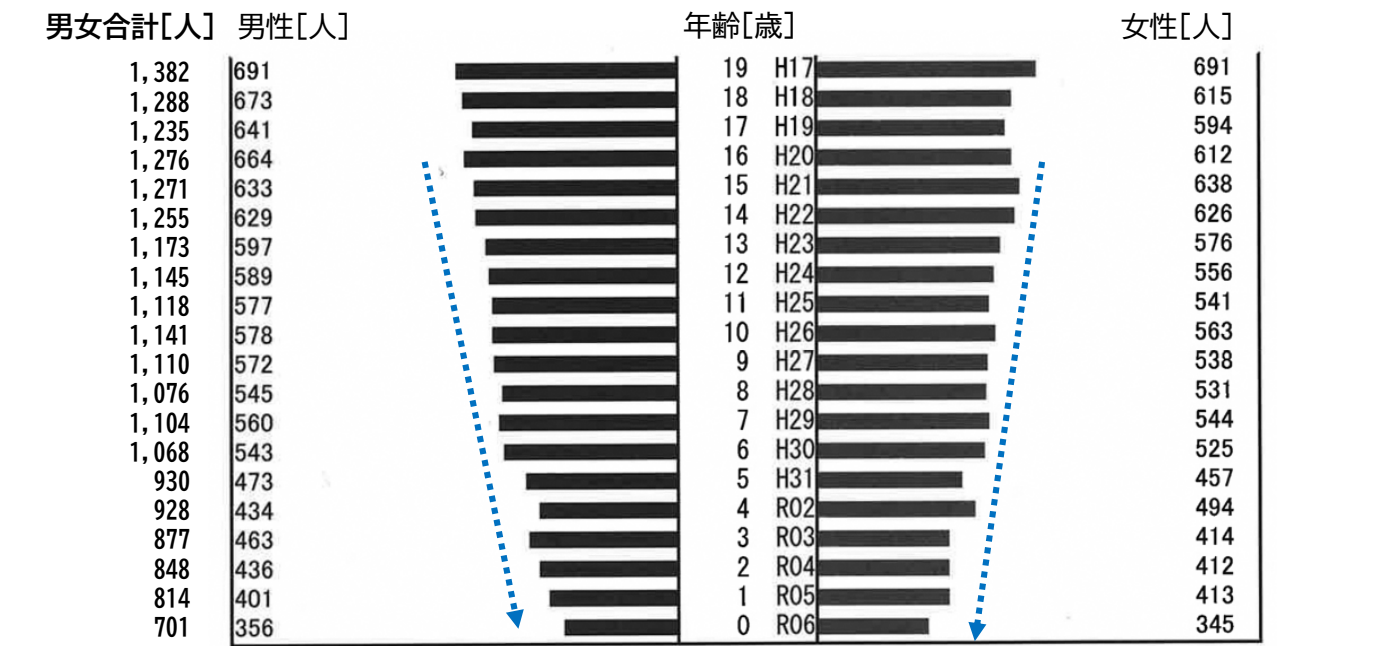
稼働率はおおむね40～60%程度となっており、新公会堂も同程度の稼働率と予想される。



1. 大ホール部門 検討事項1-1. 客席数

●古河市の人口について

- ・市内の1つの学年が入りきるホール規模：成人式や芸術鑑賞会などの市内行事への対応
- 参考：古河市の男女/年齢別人口（令和6年3月1日時点・市HPより、19歳以下を抜粋）
- 将来的には男女ともに減少傾向である



1. 大ホール部門 検討事項1-1. 客席数

●鑑賞型の演目について

- ・プロモーター（イベントの企画/運営等を行う会社）へのヒアリング
 - 古河市の立地上、貸館による大規模な興行の成立は難しい
大規模都市圏へのアクセスの容易さ、また北関東エリアの大規模ホールとの競合
 - 客席数としては、1,200-1,500席規模が望ましい
 - 古河市近隣のホールのように、共催事業とすることで良質な鑑賞型事業を実施できる
※共催事業：ホールの利用料金を徴収しない、チケット販売の一部を施設側でも実施
プロモーターはチケット売上の一部を施設側に納める
市は鑑賞事業の機会の増加、プロモーターは金銭的リスクの低減がメリットとなる

参考：公益財団法人 結城市文化スポーツ振興事業団「令和4年度事業報告書」より
「鑑賞型事業」の内訳

- ・主催事業：5件 ⇒オーケストラ、親子映画上映会、楽器のワークショップなど
- ・共催事業：14件 ⇒アーティストのホールツアー、寄席/落語、バレエ、お笑いライブなど

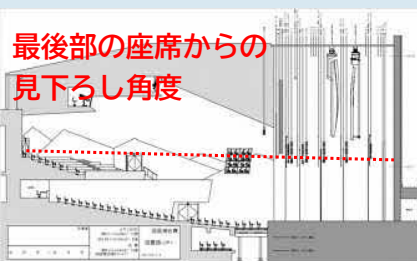
●提案

- ・大ホールの客席数は、1,300席程度とする
- ・少人数での大ホール利用もできるように、1階席以外を隠せるような設備を設ける
(バルコニー上部に幕を設置する、など)

7

1. 大ホール部門 検討事項1-2. 客席形状(層数)

●客席の形状に関する事例



2層：長野市芸術館
1,292席(916席/376席)

3層：ひらしん平塚文化芸術ホール
1,200席(663席/339席/198席)

4層：東広島芸術文化ホールくらら
1,206席(667席/188席/189席/162席)

緩やか

急勾配

8

1. 大ホール部門 検討事項1-2. 客席形状(層数)

●客席の形状に関する比較

	2層	3層・4層
建築面積	△ 客席部分の建築面積は大きくなる ホワイエの層数を抑えられる	△ 客席部分の建築面積は小さくなる 層ごとにホワイエが必要となる
建物高さ	○ 客席部分の高さは抑えられる	△ 客席部分の高さが高くなる
舞台の見やすさ	○ 最後列は舞台と客席との距離が遠くなるが、 勾配は緩やかであり、舞台上の演者と同じ視線となる(舞台を見やすい席が多い)	△ 舞台と客席との距離が近いが、 最後列は舞台を見下ろす角度が急になる(舞台を見にくい席が多くなる)
来場者の利便性	○ 階段やエレベーター等での移動が少なく済む スタッフの案内がしやすい	△ 階段やエレベーター等で昇降する 階数が増える

●提案

- ・大ホールの客席は、2層バルコニー形式とする

9

1. 大ホール部門 検討事項1-3. ロールバックチェア

●固定席とロールバックチェアの比較

	固定席	ロールバックチェア
転換効率	× 転換は想定しない	○ 段床⇄平土間の転換が容易
演目の拡張性	△ 基本的にはエンドステージ形式の演目のみ	○ エンドステージ、平土間の演目 両方に対応 演出によってはステージ位置の変更なども可能
椅子の性能	○ 座り心地が良く、快適性の高い椅子を選定可能	△ 標準仕様の中では、選定できる椅子に制約がある
イニシャルコスト	△ 椅子+段床部分の建築工事が必要、椅子部分だけのコスト差は少ない	× 平土間演目用の機器や客席演出用のキャットウォーク等が必要
ランニングコスト	○ 定期的なメンテナンスは不要	△ 電動で操作するため、年1-2回定期的なメンテナンスが必要

●提案

- ・大ホールにはロールバックチェアを設けず、平土間の演目は小ホール/リハーサル室を利用する

10

1. 大ホール部門 検討事項1-4. 舞台規模

●古河市近隣ホールの主舞台サイズ（公立文化施設協会「全国公立文化施設」による）

施設名	客席数	開館年	幅[W]	奥行[D]	高さ[H]
春日部市民文化会館	1,506	1983年	18.0m	18.0m	9.0m
結城市民文化センター	1,286	1991年	18.0m	15.0m	9.0m
羽生市産業文化ホール	1,286	1984年	17.0m	10.0m	6.0m
佐野市文化会館	1,284	1979年	18.0m	15.0m	8.0m
久喜総合文化会館	1,218	1987年	18.0m	15.0m	9.0m
栃木市栃木文化会館	1,204	1983年	18.0m	15.0m	9.0m
栃木市藤岡文化会館	1,004	1992年	18.0m	10.0m	6.0m
野木町文化会館*	800	1995年	19.3m	11.5m	12.7m
久喜市栗橋文化会館*	480	1994年	14.0m	9.7m	7.0m

- ・舞台の幅[W]は18m(10間程度)、奥行[D]は15m(8間程度)の施設が多い
- ・プロセニウム高さ[H]は9m程度の施設が多いが、近年の同規模ホールでは10-12mの施設が多い ⇒ 反射板形式での音響性能の向上、可動式のプロセニアムの採用

●提案

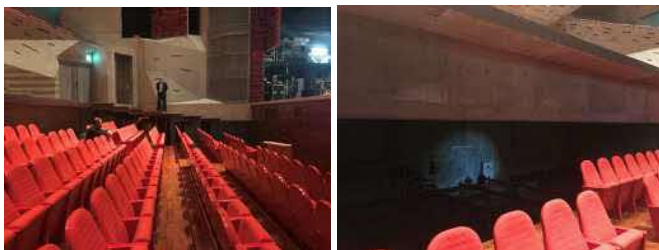
- ・主舞台の規模は10間四方（18m×18m）、もしくは10間×8間(18m×15m)程度とする
- ・プロセニウム高さは、10-12m程度とする

11

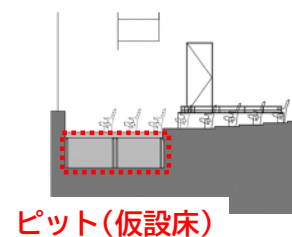
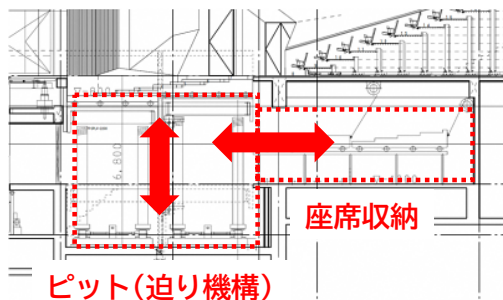
1. 大ホール部門 検討事項1-5. オーケストラピット

●オーケストラピットの方式

- ・電動：
迫り昇降・座席の収納等を電動で行う



- ・手動：
仮設床の撤去復旧、座席の着脱等が必要



- ・オペラやミュージカルでも、施設規模を鑑みると生音ではなく録音がメイン
- ・オーケストラピットを備えている施設でも、本来の用途ではほとんど利用されていない

●提案

- ・オーケストラピットは設置しない

12

1. 大ホール部門 検討事項1-5. オーケストラピット

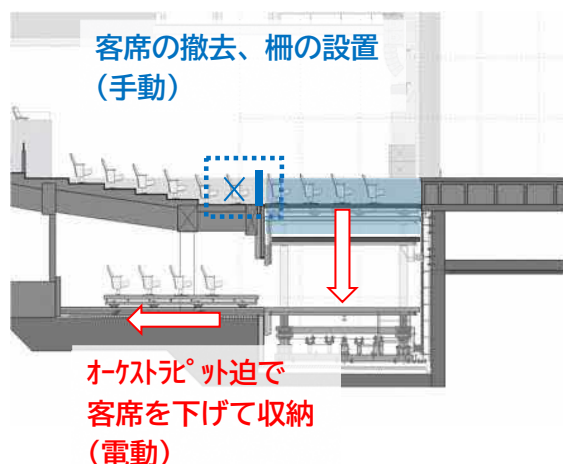
●（参考）電動のオーケストラピットを備えている施設における運用状況

例) ひらしん平塚文化芸術ホール

- ・オーケストラピットの利用頻度は年1回程度
- ・市民合唱団体による創作演目（オペラやコンサート等を複合した演目）の上演で利用
- ・上記は「七夕まつり」と併せた共催事業として実施している



オーケストラピット設置時の作業：1区分(3時間)程度の作業時間



13

1. 大ホール部門

●パターン案ごとの必要面積イメージ（※部屋やスペースの部分のみの面積、以降も同様）

	パターンA		パターンB		パターンC	
客席	1,070㎡	1,500席規模	930㎡	1,300席規模	720㎡	1,000席規模
ホワイエ	1,180㎡		1,010㎡		770㎡	
舞台	1,700㎡	10間×10間	1,550㎡	10間×8間	1,320㎡	8間×8間
技術諸室	120㎡		120㎡		120㎡	
楽屋関係	450㎡		450㎡		410㎡	
合計	4,520㎡		4,060㎡		3,340㎡	

※ホワイエ：ホワイエのほか、客用便所、主催者控室、ロッカーなど

※舞台：舞台のほか、奈落、舞台備品庫、搬入ヤードなど

※技術諸室：調光操作室、音響調整室、映写室など

※楽屋関係：楽屋のほか、スタッフ控室、技術スタッフ控室、洗濯室など

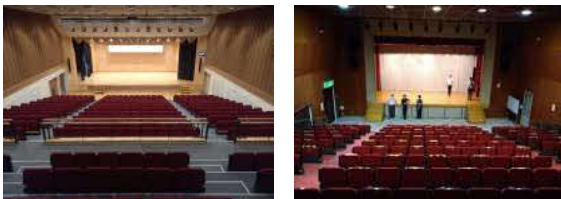
14

2. 小ホールの検討

15

2. 小ホール部門

●市内既存施設の小ホールについて（再掲）

分類	移動観覧席型	平土間型
特徴	ステージ/移動観覧席が設置されているホール	ステージのみ設置されている平土間型ホール
ホール例		
所有数	3室（古河:1、総和:1、三和:1）	13室（古河:4、総和:6、三和:3）
概要	最大の座席数は385席（野本電設工業コスモスプラザ） 利用形態：音楽発表会、演劇練習、講演会等	収容人数：最大1,000人の施設があるが、その他は150-300人程度の規模が多い 利用形態：卓球、体操、吹矢、ダンス等

- ・市内には、市民の発表に適した規模の小ホールが複数設置されている
- ・一方で、舞台設備や裏方諸室(楽屋やリハーサル室)などの機能について、十分ではないという意見も挙げられている

⇒市内既存の小ホールとの役割分担・差別化をふまえた検討
 大ホールのリハーサル機能として、大ホールの主舞台と同程度の広さを備えたリハーサル室は設置することが望ましい

16

2. 小ホール部門

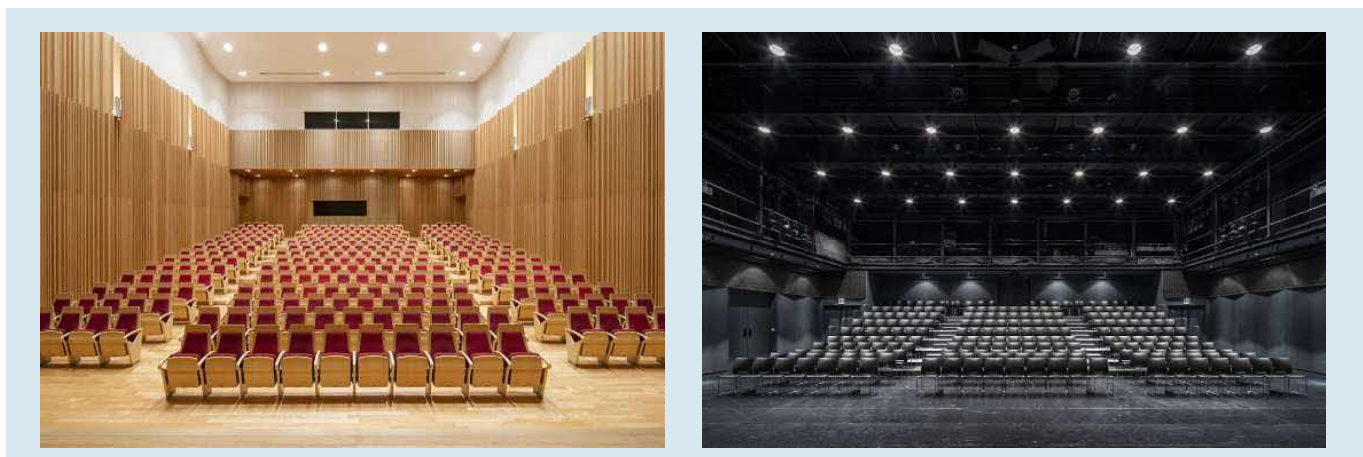
●小ホールのイメージ①：専用ホール型

長野市芸術館 リサイタルホール(293席)

- ・音楽主目的、白色・木を基調とした空間
- ・袖がないため面積は最小限、舞台設備は最小限
- ・リハーサル用途は兼用不可

長野市芸術館 アクトスペース (230席)

- ・演劇主目的、黒色のブラックボックス
- ・平土間形式の他、舞台や客席の配置を自由に設定できる実験的な演目にも対応



※長野市芸術館はこれらとは別に、大ホール用のリハーサル室(210㎡)も設置されている

17

2. 小ホール部門

●小ホールのイメージ②：多機能型

大和市文化創造拠点シリウス サブホール(272席)

白河文化交流館コミネス 小ホール(321席)

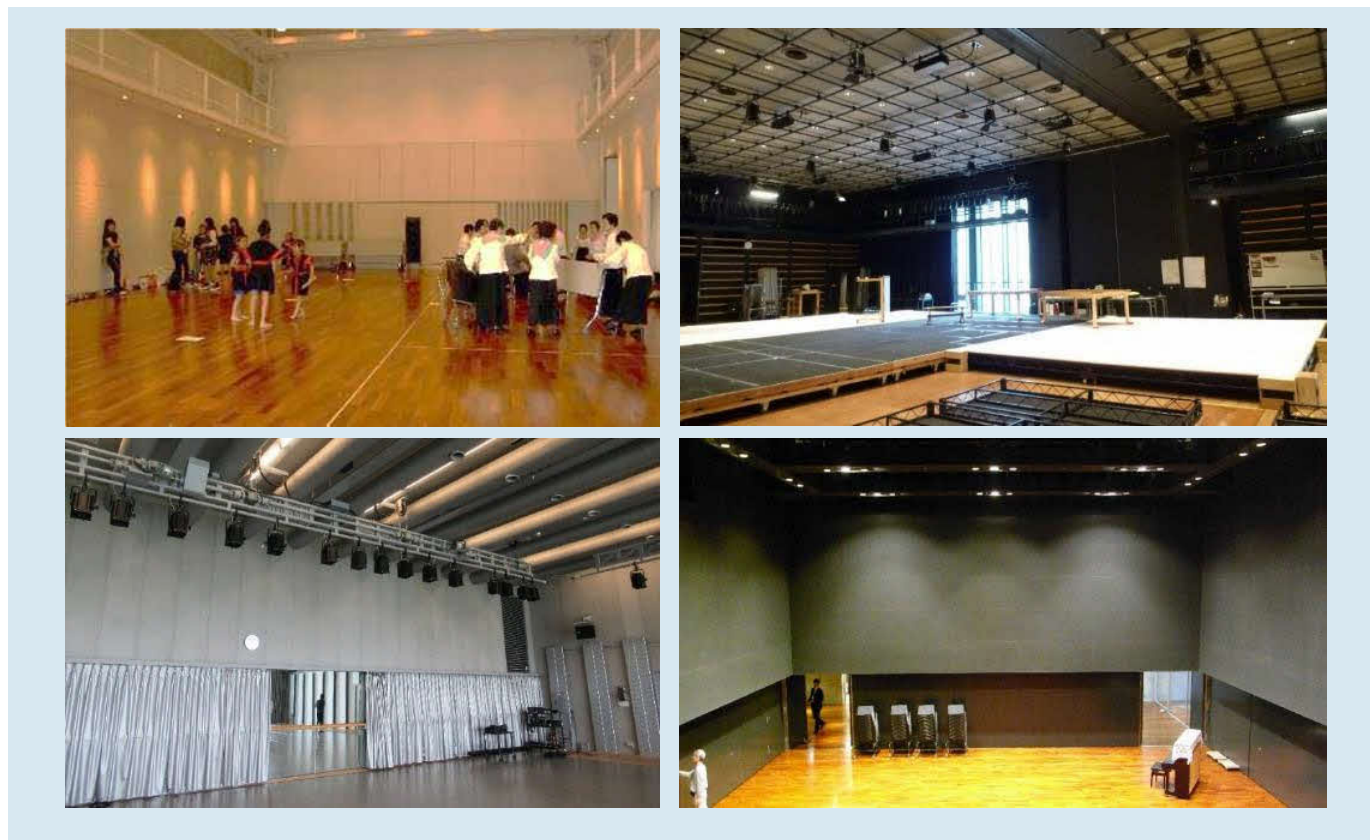
- ・客席部分：平土間＋ロールバックチェア
- ・舞台部分：幕パネル＋シューボックス、演劇系・音楽系の小規模公演にそれぞれ対応



18

2. 小ホール部門

●小ホールのイメージ③：リハーサル特化・平土間の大空間（再掲）



19

2. 小ホール部門 面積パターンまとめ

●パターン案ごとの必要面積イメージ（※部屋やスペースの部分のみの面積、以降も同様）

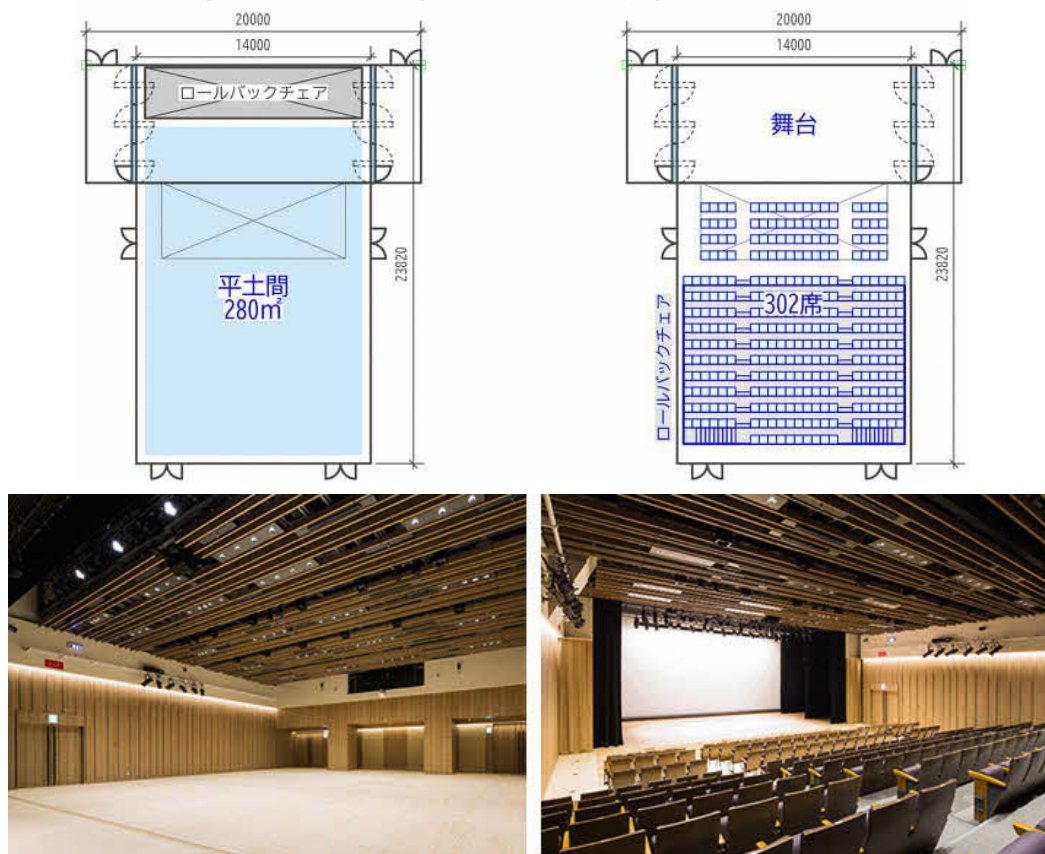
	パターンA 専用ホール	パターンB 多機能型ホール	パターンC
客席	200㎡ 300席規模	200㎡ 300席規模	
ホワイエ	270㎡	170㎡	
舞台	280㎡ 8間×5間	280㎡ 8間×5間	小ホールは 設置しない
技術諸室	70㎡	70㎡	
楽屋関係	170㎡	170㎡	
合計	990㎡	890㎡	0㎡

●提案

- ・リハーサル室機能を兼ね備えた、多機能型(ロールバックチェア)の小ホールを設ける
- ・大ホールの舞台と同じ階に設置し、リハーサル利用の利便性に配慮する

2. 創造支援部門 面積パターンまとめ

●多機能型小ホールの利用イメージ（パターンB想定）



21

2. 創造支援部門 面積パターンまとめ

●多機能型小ホールの利用イメージ（パターンB想定：平土間レイアウト例）



22

3. 創造支援部門の検討

23

3. 創造支援部門

●市内既存施設の練習室について（再掲）

分類	多目的型	創作活動型
特徴	会議や研修、練習等多目的な用途で利用	音楽・調理・実習等、特定の用途で利用
諸室例	 	 
所有数	57室（古河:24、総和:24、三和:9）	42室（古河:19、総和:19、三和:4）
概要	諸室：会議室、研修室、体育室、学習室、多目的室等 利用形態：竹細工、囲碁、書道、演劇練習、フラダンス、卓球、ヨガ等	諸室：和室、茶室、音楽室、工作室調理室等 利用形態： 【和室】茶道、舞踊、着付け、ヨガ等 【調理室】パン作り、そば打ち等 【音楽室】コーラス、二胡等 【工作室】絵画、陶芸等

- ・練習機能のみであれば、市内の公民館・交流センターを利用可能
- ・一方で、高機能な練習室が不足している（防音機能、鏡、水回り、楽器など…）

24

3. 創造支援部門

●練習室のイメージ①：練習機能を分担する（再掲）

太田市民会館

- ・大ホール、スタジオ兼リハーサル室のほか、練習室系機能は最小限にとどめる
- ・市内既存公共施設との機能分担を図るための計画



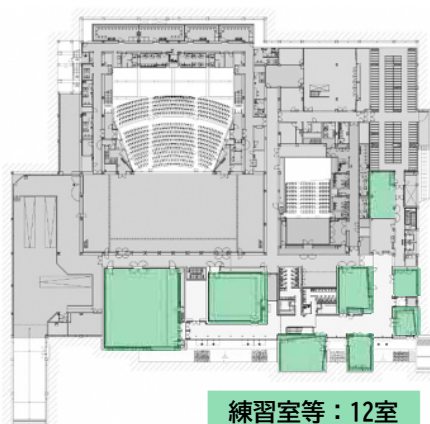
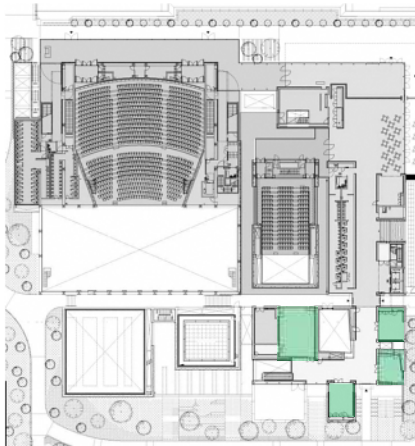
25

3. 創造支援部門

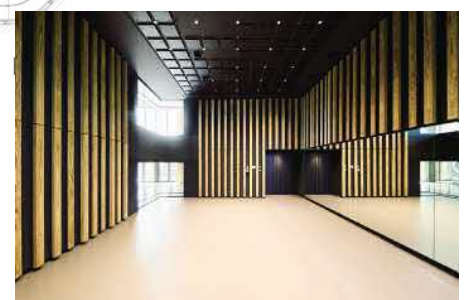
●練習室のイメージ②：各機能に特化したスタジオ群

高槻城公園文化芸術劇場

- ・「ひと・まち・未来が輝く 文化芸術の創造・発信拠点」がコンセプトの施設
- ・音楽・身体表現・会議の使い方に特化した設備を持つスタジオが複数設けられている



音楽スタジオ：音響配慮、ピアノ設置



身体表現スタジオ：リノリウム、鏡

26

3. 創造支援部門 面積パターンまとめ

●パターン案ごとの必要面積イメージ

パターンA		パターンB	パターンC
リハーサル室	400㎡ 20m×20m：200人程度	— (小ホールを兼用)	270㎡ 15m×18m：120人程度
スタジオ	200㎡ 大スタジオ 1室 中スタジオ 2室 小スタジオ 2室	120㎡ 中スタジオ 2室 小スタジオ 2室	40㎡ 小スタジオ 2室
合計	600㎡	120㎡	310㎡

●提案

- ・練習室は市内既存文化施設との機能分担を鑑み、高機能なスタジオを4室程度設ける

27

4. 共用部門の検討

28

4. 共用部門

●前回委員会を踏まえた機能の整理

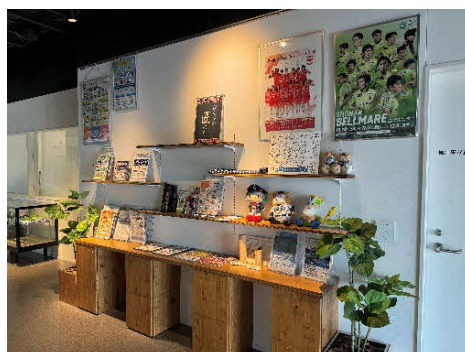
- ・ 情報スペース：ホールでの催事紹介、サークル活動のメンバー募集などが行えるスペース
 - ・ 学習スペース：市民が日常的な学習を行えるスペース
 - ・ 展示スペース：市民の活動の成果などを展示できるスペース
 - ・ 飲食機能：日常的な憩いの場となるスペース、カフェやレストラン
 - ・ 防災機能：地震や洪水の際の一時避難所としての設備、備蓄倉庫
 - ・ 託児コーナー：子供連れ世代が施設を利用しやすくするためのキッズルーム等
 - ・ アーカイブ：これまでの公会堂の歴史や、事業などの活動記録を保存・展示
- ・ 市の展示スペースは基本的には設けない

29

4. 共用部門

●情報スペース・学習スペース・展示スペース・アーカイブ

- ・ エントランスホールの一部や、壁面の設えを工夫することで積極的に「重ねづかい」する
- ・ 兼用の機能とすることで、限られた床面積を有効活用したい



30

4. 共用部門

●飲食機能

- ・椅子やテーブルは他の機能の部分（情報スペース等）も利用可能
- ・ホール併設のカフェ・レストランは採算性が取れないことも多いため要注意
- ・カフェ機能、レストラン機能…など、調理の度合いによって必要スペースが異なる



●防災機能

- ・大ホールや小ホール(リハーサル室)などを一時避難場としても利用可能
- ・防災倉庫を屋外に設置する、かまどベンチ・マンホールトイレなど屋外に防災家具を設置するなど、面積増につながらない計画を中心に検討



31

4. 共用部門

●託児コーナー

- ・保護者の目の届く範囲内で、安全性を確保できる空間を確保
- ・授乳室や子ども用トイレなども設置する必要あり
- ・託児コーナーの職員を常勤とするか、大規模催事に合わせたスポット対応とするか
管理運営計画の中でも検討が必要



32

4. 共用部門 面積パターンまとめ

●パターン案ごとの必要面積イメージ

	パターンA	パターンB	パターンC
エントランス	600㎡	500㎡	400㎡
飲食機能	200㎡ (レストラン相当)	50㎡ (カフェ相当)	—
防災機能	(屋外施設)	(屋外施設)	(屋外施設)
託児コーナー	60㎡	60㎡	60㎡
合計	860㎡	610㎡	460㎡

●提案

- ・ 情報スペース・学習スペース・展示スペース・アーカイブ等の機能を有する共用ロビーを設ける
- ・ 共用部門には飲食機能、託児コーナーを設ける

33

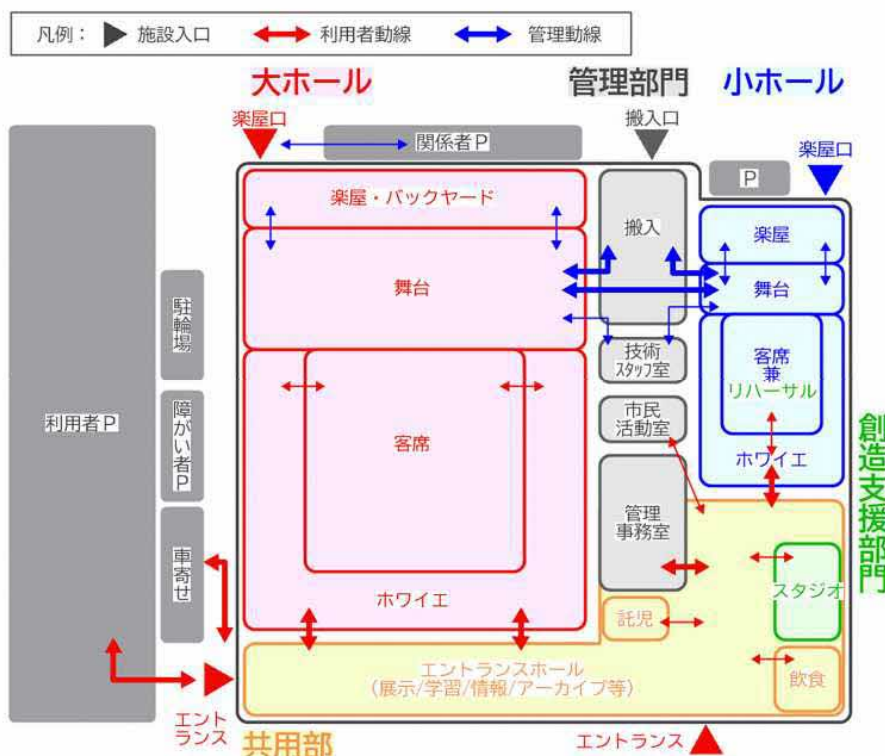
5. 配置計画の検討

34

5. 配置計画の検討

●ゾーニング図（前回委員会での「機能図」の詳細版）

※配置は未確定



1. 施設内のゾーニング方針

- ①来館者動線・管理動線(出演者動線)をそれぞれ別々に、なおかつ効果的に確保する
- ②諸室を適切に配置し、施設の利便性を確保する
- ③1階をメインフロアとして、人や物が頻繁に行き来する部屋やエリアは極力1階に配置する

2. 敷地に対する施設配置方針

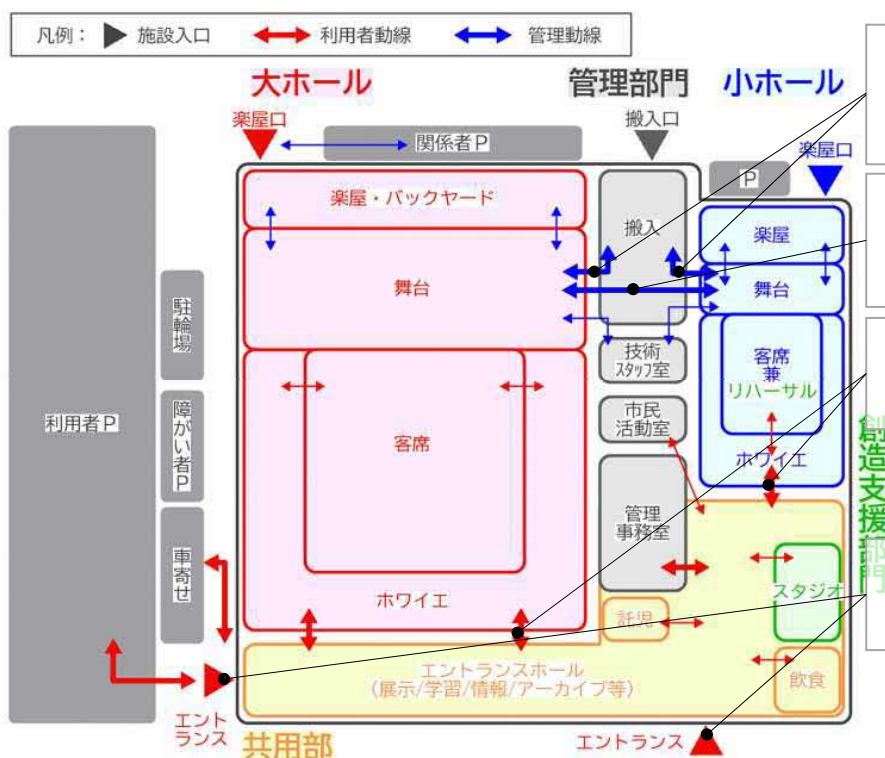
- ①安全に配慮した車両動線、ならびに歩行者の動線を確保する
- ②関係者用駐車場及び搬入動線(大型トラック対応)を確保する
- ③車寄せ・障がい者用駐車場・駐輪場を確保する
- ④各種法令に適合し、屋外の動線に必要な離隔・通路幅を確保した、「建築可能範囲」を考慮した施設配置を検討する

35

5. 配置計画の検討

●ゾーニング図（前回委員会での「機能図」の詳細版）

※配置は未確定



・搬入口からの経路は舞台セットや楽器など、大型のものが通る

・舞台やリハーサル室を2階以上に配置する場合は大型エレベータが必要

・大ホールのリハーサル利用を鑑み、出演者や舞台セットの行き来がしやすいように配慮し、同一階に配置する

・イベントの際には多くの来場者が見込まれるため、共用部～ホワイエへの動線はできるだけ簡略化する

・来場者エントランス等は車で来場、徒歩や公共交通を使った来場の両方に対応できるよう、複数箇所設ける

36